

子連れでも安心して相談できる環境を

民報
おうしゅう
読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目59
Tel 24-2021
Fax 24-2049



佐藤議員は新医療センターの構想に周産期・子育てサポート機能が提示されていることから「親子が安心して相談、手続きができ、安心して過ごせるような一体型の子育て支援複合施設を検討すべき」と主張しました。

佐藤美雪議員は、子育て世代包括支援センターは、妊娠から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うこととされ、相談、行政サービスはその場で受けることができます。



佐藤美雪議員

奥州市議会6月定例会は、6月28日閉会しました。日本共産党市議団は、子育て支援、地域医療等の市政課題について、一般質問を行いました。本号では、佐藤美雪議員、千葉敦議員の質問内容を掲載します。

佐藤議員は、相談、手続きがワンストップでできる点は評価しつつ、利用者目線での不便さについて指摘。「職員が密集してデスクワークをしている中で、子連れで安心して相談できる環境にないのではないかと質しました。

それに対し、担当部長は「窓口配置を変え、子どもを遊ばせておくことができるカーペット敷きのゾーンを設けるなど、できる範囲の改善を図りたい」と述べました。

子どもを遊ばせられる

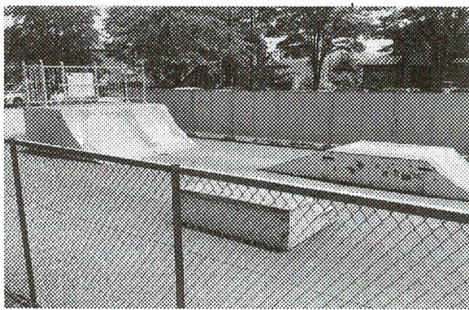
一体型の施設を

子どもの夢を後押しする スポーツ環境の充実を

佐藤議員は、他県から奥州市へ引っ越してきた親子から「市内で十分にスケートボードが滑れる場所がない」という要望を受け、市内で唯一の専用スケートボード場の更なる充実、新たな専用パーク設置について質問しました。

若い世代の声の受け止めを

佐藤議員は、「スケートボードは10代20代が中心のスポーツ。若い世代の声を受け止め、スポーツ推進施策やまちづくりを進めていきたい」と訴えました。



江刺中央体育館スケートボード場

新医療センター建築では 病院現場職員の声の反映を



千葉敦議員

奥州市は、地域医療奥州市モデルについて、地域医療懇話会、各地域での市政懇談会、各種団体への出張懇談会及び市議会全員協議会での意見をもとに、加除修正して機関決定しました。

その中では、5つの市立医療施設の独自性を生かし、県立病院、民間医療施設と機能分化を図るとともに、医療情報の連携を強化し、地域全体をカバーするネットワーク型による地域医療体制を構築するものであると説明しています。そして、このモデルの実効性を高めるため、新医療センターの整備を進めるとしています。

新医療センターの

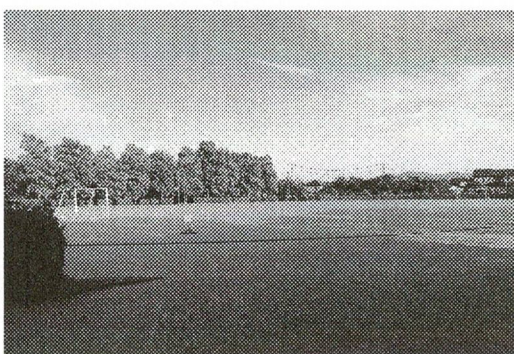
検討組織は

千葉敦議員は、新医療センターの具体的な構想について、検討組織を立ち上げることであるが、その内容について質しました。

倉成市長は「市民、関係者、外部の有識者で構成し、様々な観点から議論を深め、その規模や機能の詳細について固めていきたい」と述べました。

現場の声が反映される 使い勝手のよい施設を

千葉議員は、新医療センターの設計や建設において、業者選定にあたっては、ローコストを意識し公開プロポーザル方式の採用及び市民意見や病院現場職員の声を反映させ、使い勝手のよい洗練された施設とするよう努めるべきだと指摘しました。



新医療センター建築予定地(水沢公園)